

ゆり切り花における高品質生産 栽培管理技術マニュアル

令和2年3月

さいたまの花普及促進協議会

【はじめに】

深谷市は埼玉県内有数の花き産地で、ゆりの球根切り花栽培が盛んであるが、連作による土壌環境の悪化や夏季の異常高温により生理障害や品質低下が発生し、その対策が求められている。

また、オランダにおける異常気象により深谷市の主力品種の球根供給が不安定となっていることや、これまで出荷の少なかった白やピンクの品種を積極的に生産しようとする動きがあるなど、新品種の導入に向けた栽培特性の把握や市場性の確認が課題となっている。

【実証の内容】

- 1 ほ場湛水と土壌消毒による連作障害対策
- 2 遮光資材を活用した高温期の生産安定
- 3 新品種導入に関する栽培特性・市場性の把握

1 ほ場湛水と土壌消毒による連作障害対策

連作に起因する葉先枯れや生理障害を改善する技術の実証

(1) 実証方法

使用品種：チェザーレ、イエローダイヤモンド

実証内容：ほ場湛水による除塩処理（7月13日～8月5日）
及び 土壌消毒（バスアミド処理）（写真1）

確認調査：土壌調査 pH、EC ほ場湛水前後、栽培終了後
生育調査 根量、立毛 1作目：11月、2作目：3月

(2) 実証結果

- ・ 土壌特性については、表1のとおり、ECの減少を確認できた。
- ・ 根の生育は、慣行と比較し根張りがかなり改善された。（写真2）
- ・ 生育の斉一性が改善され、等級選別が省力化された。
- ・ 3L・2L規格の秀品率は80%だった。

表1：湛水処理と慣行の土壌pH、ECの比較結果

ほ場		時期	pH(H2O)	EC
湛水処理	作付前（処理前）	6月	5.14	0.43
	処理後	8月	5.11	0.38
	作付終了後	3月	5.49	0.42



写真1：湛水処理後のバスアミド処理



写真2：2作目収穫時の根の様子
（上）湛水処理（下）慣行
（品種イエローダイヤモンド）

2 遮光資材を活用した高温期の生産安定

定植後の短期間遮光による発根促進及び草丈伸長技術の実証

(1) 実証方法

使用品種：カバリア

実証内容：遮光資材のトンネル被覆

8月～9月、うち被覆は10日間

確認調査：地温の推移 栽培中、地中5cm深度

生育調査（草丈、着蕾数、茎径） 収穫時

球根上根の根量 収穫後

(2) 実証結果

- ・地温は、慣行より最大で3.1℃下がった。（右図）
- ・生育と根量は、慣行より良かった。（表2、写真3～）
- ・生育が揃い、ほぼ上位等級で出荷できた。
- ・生育が揃い、等級選別が省力化された。

※ベッド単位で被覆を行うことにより、ハウス内の複数の生育ステージに対応できる。

※遮光期間（時間）は、草丈を確認して、徒長しない程度にとどめる。

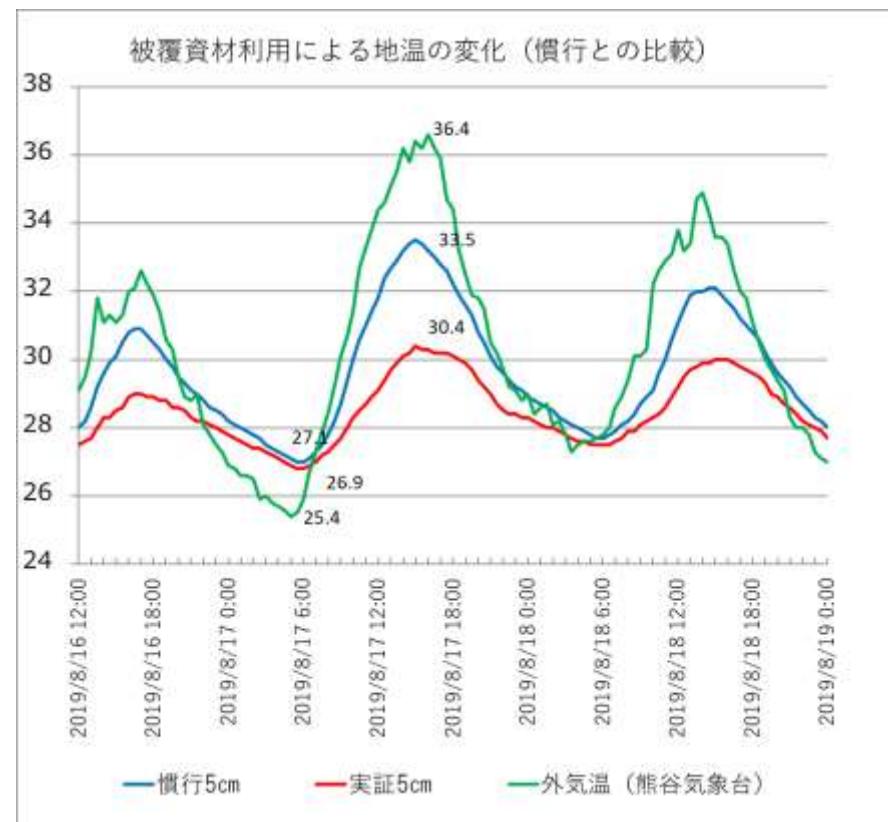


表2：確認内容の比較

	草丈 (cm)	着蕾数 (輪)	茎径 (mm)	根量 (g)
遮光あり	115.6	5.4	6.6	4.14
遮光なし	99.8	5.3	6.4	2.9

※根量は乾燥重



写真3 8/13 被覆後3日目



写真4 8/19 被覆除去2日後



写真5 9/12 収穫期 左：遮光区 右：慣行



写真6 収穫後の発根状況
左：遮光区 右：慣行

3-1 新品種導入に関する栽培特性の把握

新品種の選定に向けて、南半球産球根品種の到花日数や積算温度を測定し、栽培特性を把握する。

(1) 実証方法

使用品種：ティレノ（ピンク）、ピガレ（ピンク）、イモラ（ピンク）、リトーウィン（白）、アミーガ（オレンジ）

実証内容：栽培中の到花日数・積算温度、収穫時の草丈・輪付き・軸の太さ・葉色・秀品率による特性把握

実証期間：令和元年11月～令和2年2月

(2) 実証結果

- ・ 到花日数は、イモラが最も長かった。
イモラ > ピガレ > リトーウィン > ティレノ > アミーガ
- ・ 13/14cm球根では、着花数が減り、2 L 比率が高くなった。
- ・ アミーガは到花日数が短く、ハウスの回転率が上がる。
- ・ イモラは到花日数が長いので、定植時に注意が必要である。
- ・ ティレノは色が薄いので、切り前の判断が難しい。
- ・ 全品種の14/16cm球根で、3 L 秀品率は80%以上だった。



写真7：（左から）ピガレ、イモラ、アミーガ

表3：南半球産球根の各品種の栽培特性調査結果

品種名	色	球根サイズ (cm)	植付日	採花日	到花日数 (日)	積算温度 推定値 (°C)	草丈 (cm)	輪付き (cm)	軸の太さ (cm)	葉色	秀品率 3 L (%)	秀品率 2 L (%)
ティレノ	ピンク	13/14	11/3	2/3	92	1,523	115.2	4.2	6.2	40.1	10	80
ティレノ	ピンク	14/16	11/1	1/30	90	1,490	129.1	5.3	6.8	43.0	90	10
ピガレ	ピンク	14/16	11/1	2/1	92	1,524	139.0	5.2	6.6	43.9	90	10
イモラ	ピンク	14/16	11/1	2/5	96	1,591	134.0	6.7	7.5	48.8	100	
リトーウィン	白	13/14	11/3	2/4	93	1,540	126.8	4.1	7.0	50.4	30	60
リトーウィン	白	14/16	11/1	1/31	91	1,507	137.4	5.1	8.1	49.1	90	10
アミーガ	オレンジ	13/14	11/3	1/25	83	1,375	125.0	4.5			10	70
アミーガ	オレンジ	14/16	11/3	1/29	87	1,439	135.0	5.5			80	20

3-2 新品種導入に関する市場性の把握

栽培特性の把握を行った品種において、市場性を確認する。

(1) 実証方法

使用品種：ティレノ、ピガレ、イモラ、アミーガ
リトーウィン（チリ産、オランダ産）

実証内容：日持ち調査の実施

販路拡大に向けたピンク品種の市場性の聞き取り調査

実証期間：令和2年2月3日～令和2年2月17日（日持ち調査期間）

(2) 実証結果

- ・イモラの日持ちが最も長いですが、市場性の面からみるとピガレが花型や花の付き方が上向きで良いという点で、最も高かった。

写真8：日持ち調査7日目の開花状況



ティレノ



ピガレ



イモラ



アミーガ



リトーウィン（チリ産）

表4：日持ち調査結果

※オランダ産リトーウィンの結果は参考値

品種	色	日持ち（日）	前処理
ティレノ	ピンク	13	あり
ピガレ	ピンク	13.4	
イモラ	ピンク	15	
アミーガ	オレンジ	11.8	
リトーウィン（チリ産）	白	11.2	
リトーウィン（オランダ産）	白	11.2	

表5：ピンク品種の市場性聞き取り結果

品種名	市場性	市場性理由
ティレノ	○	・花型、花の付き方○ ・色ムラがある
ピガレ	◎	・花型、花の付き方○ ・日持ち性がよい
イモラ	△	・花弁が細い ・花がやや横向き ・葉が垂れる

実施機関 さいたまの花普及促進協議会

協力機関等 埼玉県大里農林振興センター
JAふかや深谷ゆり部会

本マニュアルは農林水産省「次世代国産花き産業確立推進事業」で実施した実証事業により作成しました。

発行者 さいたまの花普及促進協議会
〒330-0063 さいたま市浦和区高砂3-12-9埼玉県農林会館
TEL：048-711-7166